02 エリアの現況分析

エリアの公共空間の課題

02｜市民が望む体験とのギャップ（まちに関わる人の想い）

インタビューの5つの属性の方々からは、それぞれの持つまちへの期待と課題認識が伺えました。また、各属性が交わっていないことも想像ができます。

点在する面白い店に可能性を感じる

Uターンするイメージが湧かず「ふるさと」になりづらい

大学生

自宅近くで働くため駅周辺に行く目的がない

マンション（物干し）と畑（消毒剤散布）の共存が難しい

自営業
（農家）

黒目川のファン

もっと多くの人に魅力に気づいてほしい

駅から近いため繋がりを強化したい

まちとの関わりは会社とランチ先（特定の店）しかない

同僚に「会うリスク」で入れる店が限られる

勤務地の社会人

乳幼児子育て
（専業主婦・パート）

こどもを連れて行ける場（特に屋内）を増やしてほしい

小さな公園は十分にあるが広い公園がほしい

✓5つの属性が良い意味でバラバラ（多様）な視点を持っている
✓一方で、他の視点に触れる機会や接点が少ない可能性が高い

03 エリアの目指す将来像

03 エリアの目指す将来像

将来像の仮説

コンセプト

2040年の未来に向け、北朝霞・朝霞台に必要なのは、再び交差することです。それは、これまで通り過ぎていたことに改めて目を向け、触れてみること。つまり、触れる喜びを通し、日常に点在する価値に気づく視点を持つことだと考えます。

Images Generated by Midjourney

03 エリアの目指す将来像

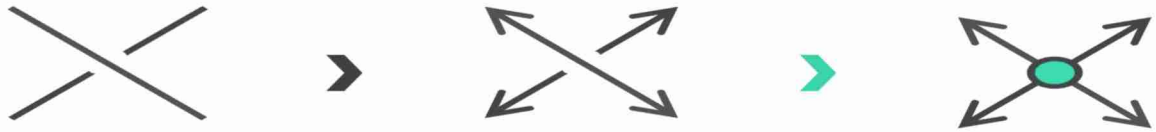
将来像の仮説

コンセプト

北朝霞・朝霞台駅周辺エリアには、鉄道や道路などの様々な交差があります。また、人の営みにおいても、様々な方々がまちに関わり、多くの出来事を生み出してきました。
しかし、区画整理事業から約50年が経ったいま、駅の利用者数は人口に匹敵するほどの人数がいるにもかかわらず、利用者同士が関わる機会を持つことはなくほぼ「スルー(通過)」しており、まちとの関わりもない状態です。
この状況を打開するためには、当エリアの持つ交差の特性を活かし、「タッチ(触れる)」している状態を生み出す必要があります。

re crossing
ー触れる喜びのある日常ー

“スルーからタッチへ”
交差の価値転換



【過去】
駅が開業し交差が始まった

【現在】
人は交差するが関係性は生じない（スルー）

【未来】
人が交差し価値も生まれる（タッチ）

スルーしている状態

孤立

無関心／無関係

無理解による不満・不信

タッチしている状態

出会い

関心や関係性がある

共感や愛着による信頼性

https://www.freepik.com/free-vector/people-crowd-isometric-collection_9462408.htm#page=2&query=isometric&position=2?log-in=google

タッチしている状態を生み出すには
「出会いの場」があることと
関係性を作るきっかけとして「触れる喜び」があることが大切

03 エリアの目指す将来像

将来像の仮説

鍵となる体験

まちで過ごす人の日常には「暮らす／働く／訪れる」の3つの側面があります。日常を豊かにするためには、現在はバラバラに存在するこれらが重なり合い（交差し）関係性をつくることが大切です。そこで、公共空間の持つ偶然性を活かし、このまちならではのヒト・コト・モノに「触れる喜び」を通して他者と出会える豊かな日常体験を生み出していきます。

触れる喜び

ー関係性をつくり、日常を豊かにするきっかけー

日常の行動を通してまちの要素（ヒト・コト・モノ）に触れる。
やがて様々な活動が交差し、北朝霞・朝霞台のまちを魅力的にかたどっていく。

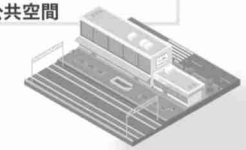
現状の日常体験

各種調査に基づいた市民の望む体験や空間

- 平日の幼い子の遊び場
- 子育てがしやすい緑の多い環境
- こどもの教育に向いている（文教地区）
- 歩きやすい道
- 買うものや買うお店の選択肢
- 居心地の良い公共空間

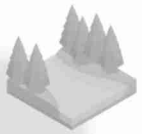
暮らす

3つの生活の側面に
重なりがほとんどない



働く

- 匿名性がある（1人で過ごせる）
- 駅周辺が便利（買い物利用／公共施設集約）
- 駅と広場が広く混まない



訪れる

- まちの歴史に触れられる（産業／歴史遺産）
- ここにしかないお店がある（個人店／非チェーン店）
- 身近な自然の豊かさ（川／動植物／景観）
- 思い出となる体験や場所

それぞれの行動が完結してしまっており
多様なまちの要素(ヒト・コト・モノ)に触れることがない

https://www.freepik.com/

「触れる喜び」のある豊かな日常体験

このまちならではのヒト・コト・モノに触れられ
他者との出会いが新たなまちの魅力を生む

https://www.freepik.com/free-vector/people-crowd-isometric-collection_9462408.htm#page=2&query=isometric&position=27log-in=google

まちで過ごす人の日常を豊かにするために
様々な活動が交差する「出会いの場」として
公共空間(ウォーカブルな空間)の持つ偶然性を活かしていく

03 エリアの目指す将来像

ウォーカブルなまちに向けた戦略

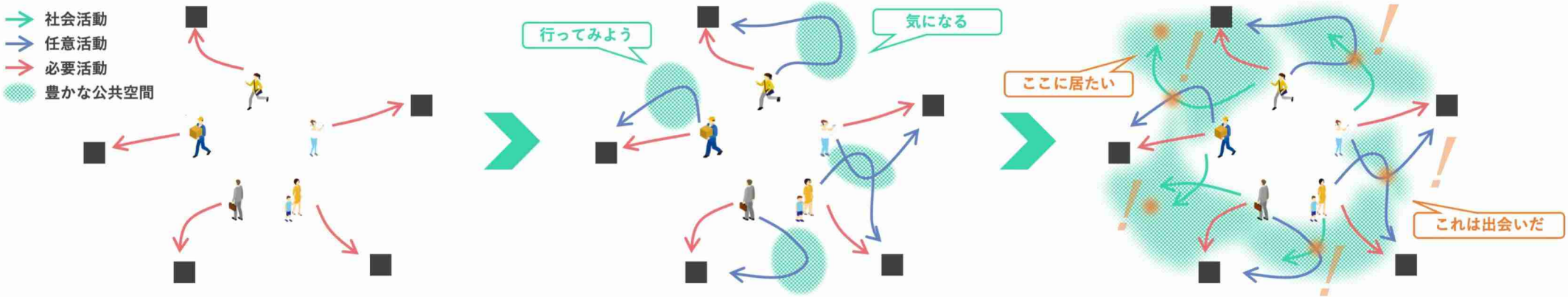
まちなかでの活動に変化を起こす仕掛け

ウォーカブルなまちに向けた戦略として、公共空間を活用し、市民のみなさんの活動が変わる仕掛けを設けます。市道や都市公園と空地などが接する部分を増やし、豊かな公共空間(ウォーカブルな空間）を徐々につくり出し育てていくことで、歩行者の行動の先に意外な出会いの機会が増えることを目指します。

touch & joy !

偶然の出会いの場として
交差が起きる小さな公共空間を
エリア内にたくさん生み出す

現在	過渡期 ＜豊かな公共空間を増やす＞	未来 ＜交差が増えてまちなかの価値が向上する＞



【必要活動が主体】
目的地に直線的

【任意活動が増える】
目的地までふらふら歩く
→公共空間の豊かさに引き付けられ、寄り道が発生する

【任意活動が主体／社会活動が増える】
公共空間自体が目的地や居場所になる
→活動が豊かになり、まちなかの価値も向上する

まちなかの活動

活動は環境の質と関係し、質が高まるとより良い活動が生まれるとされています。

社会活動
街で出会った知り合いと挨拶やおしゃべりをする／市場やベンチで偶然の出会いがある／こどもが遊ぶ／路上パレードや集会やデモ活動をする

任意活動
遊歩道をそぞろ歩く／街を眺めるために立ち止まる／良い眺めや天気を楽しむために腰を下ろす

必要活動
仕事や学校に行く／バスを待つ／客に商品を届ける

https://www.freepik.com/free-vector/people-crowd-isometric-collection_9462408.htm#page=2&query=isometric&position=27log-in=google

小さな公共空間を増やすことで
まちなかが目的地や居場所へと高質化する

やがて市民の活動が交差しより良くなることで
まちなかの価値が向上することをねらう

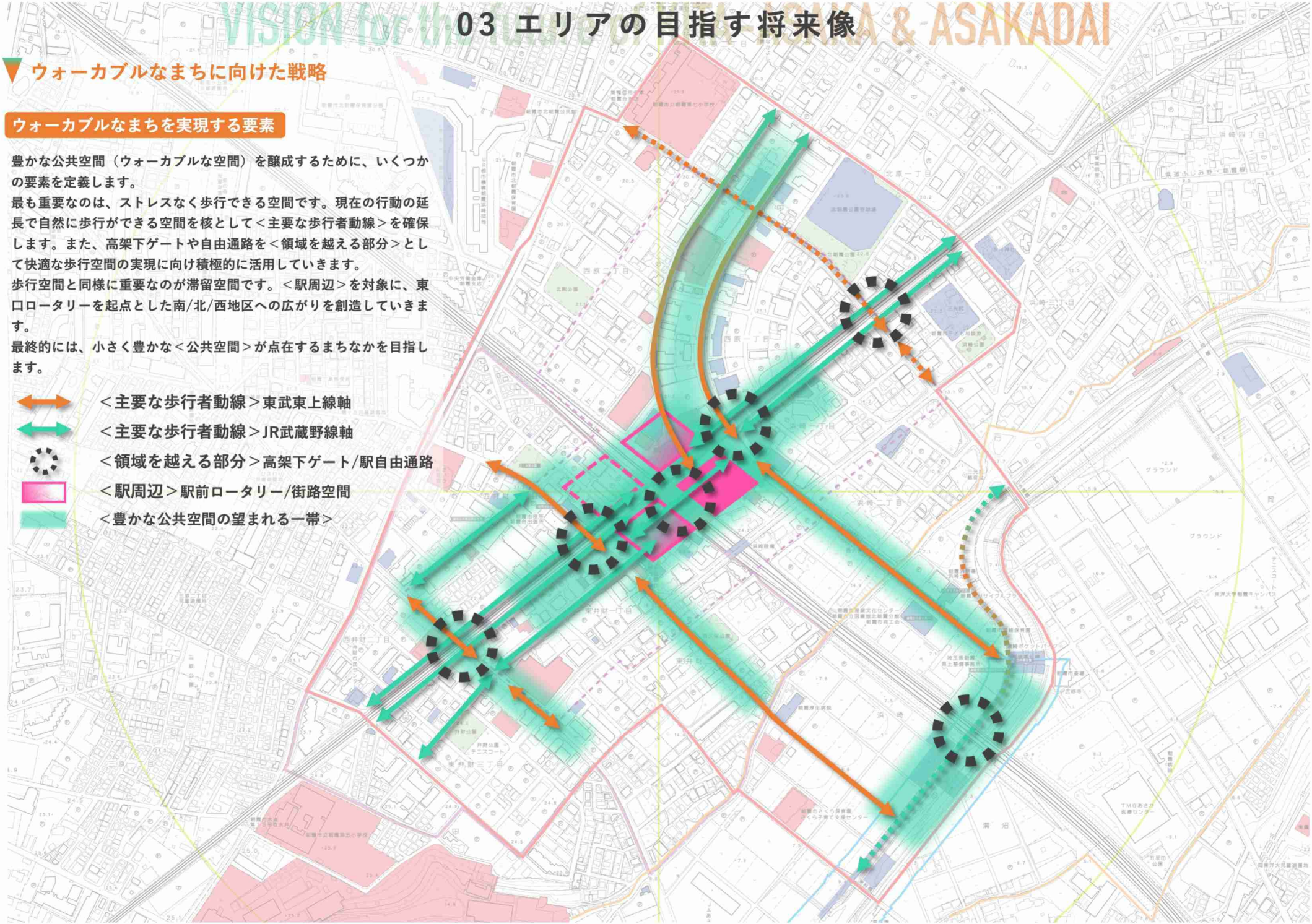
03 エリアの目指す将来像

ウォーカブルなまちに向けた戦略

ウォーカブルなまちを実現する要素

豊かな公共空間（ウォーカブルな空間）を醸成するために、いくつかの要素を定義します。
最も重要なのは、ストレスなく歩行できる空間です。現在の行動の延長で自然に歩行ができる空間を核として＜主要な歩行者動線＞を確保します。また、高架下ゲートや自由通路を＜領域を越える部分＞として快適な歩行空間の実現に向け積極的に活用していきます。
歩行空間と同様に重要なのが滞留空間です。＜駅周辺＞を対象に、東口ロータリーを起点とした南/北/西地区への広がりを創造していきます。
最終的には、小さく豊かな＜公共空間＞が点在するまちなかを目指します。

- ＜主要な歩行者動線＞東武東上線軸
- ＜主要な歩行者動線＞JR武蔵野線軸
- ＜領域を越える部分＞高架下ゲート/駅自由通路
- ＜駅周辺＞駅前ロータリー/街路空間
- ＜豊かな公共空間の望まれる一帯＞



03 エリアの目指す将来像

ウォーカブルなまちに向けた戦略

主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

戦略的に活用していく公共空間を、ウォーカブルを実現する要素から抽出した「主要なウォーカブル空間」として定めます。主要なウォーカブル空間は、未来ビジョンの重点的な活用空間として5つに分類し、以下の通り「望ましいシーン」として記述します。
（数字で示す 1 ~ 8 ）

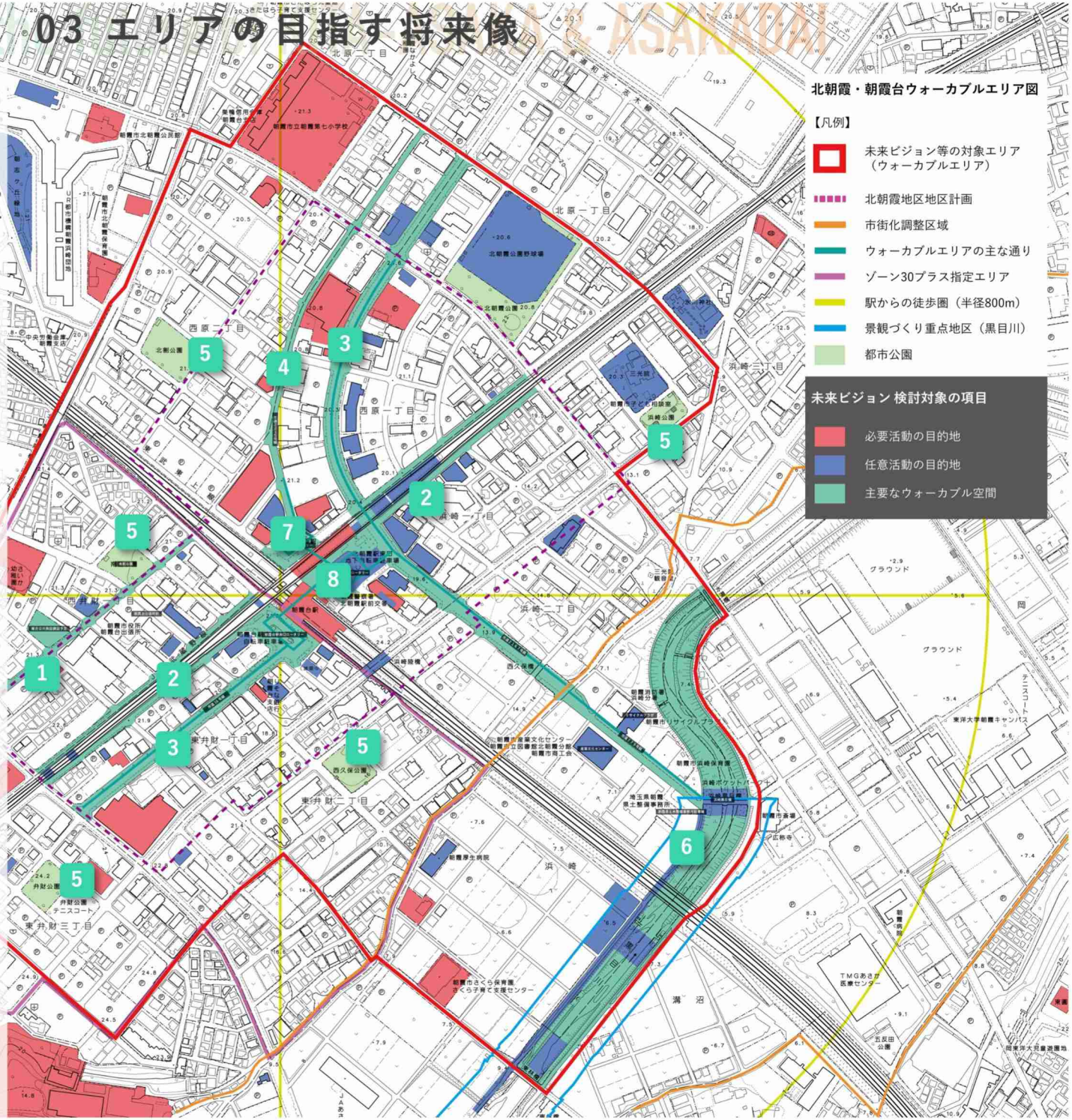
動的で発見のある回遊と滞留の空間＜街路／公開空地＞
- 南割公園近く
- (仮称)朝霞市福祉等複合施設建設予定地周辺 1
- JR武蔵野線高架下沿い 2

人と車が安全に行き交う広々とした空間＜幹線道路＞
- 市道2167号線 3
- 市道16号線 3
- 市道2215号線 4

囲われ感と開放感が共存し居心地良い空間＜公園や広場＞
- 南割公園 5
- 北割公園 5
- 弁財公園 5
- 浜崎公園 5
- 西久保公園 5

自然に触れることができる空間＜河川や緑地＞
- 黒目川 6

ヒト・モノ・コトの交差する結節的空間＜駅前広場＞
- 西口ロータリー 7
- 東口ロータリー 8
- 南口ロータリー



03 エリアの目指す将来像

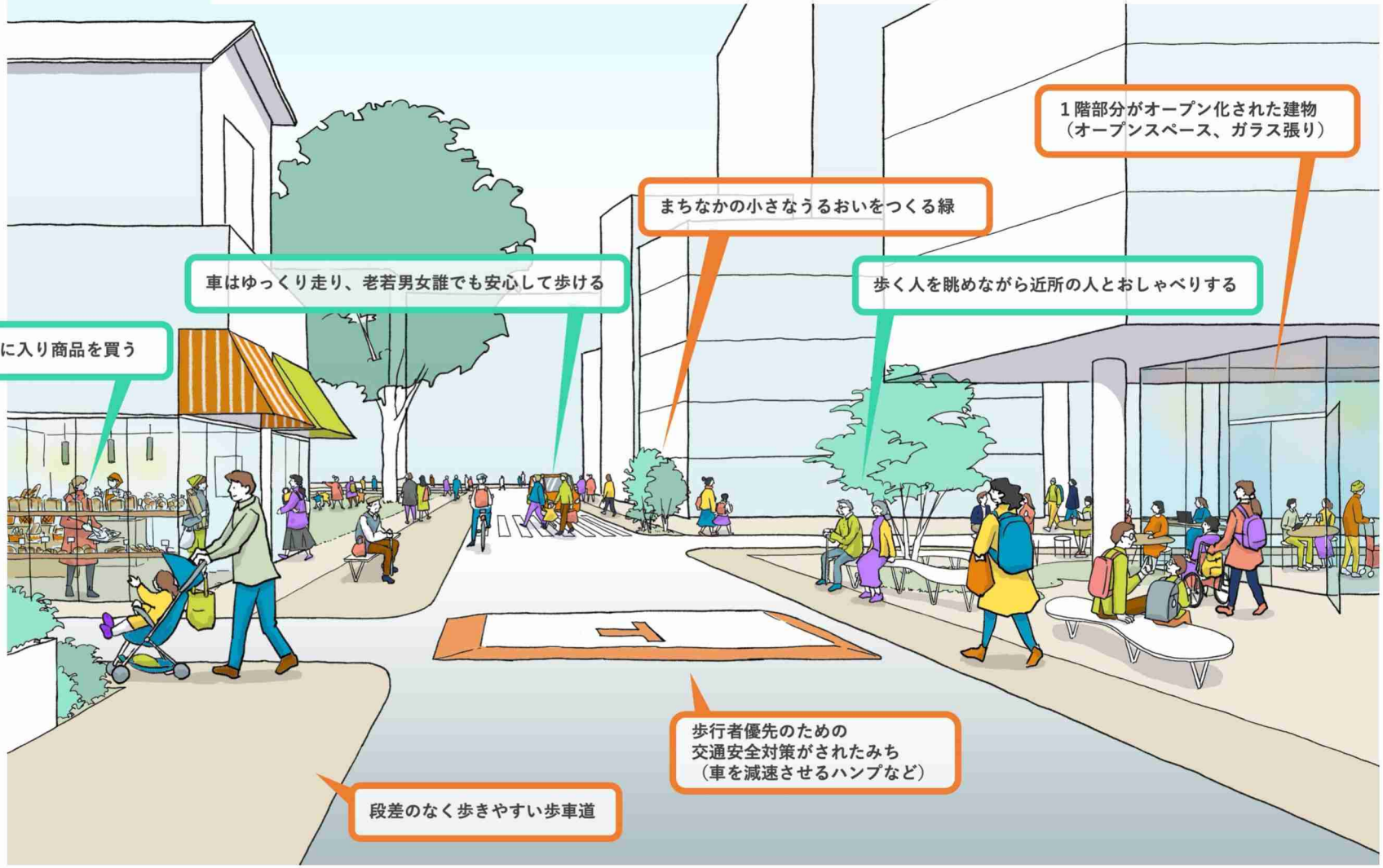
主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

1 動的で発見のある回遊と滞留の空間＜街路／公開空地＞ ｜（仮称）朝霞市福祉等複合施設建設予定地周辺

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間

ゆったり買い物や交流が楽しめる、人優先のみち



現在のイメージ

実現に向けた方向性

- ゾーン３０プラスの指定により、歩行者優先のみちづくりに向けた交通安全対策を進める。
- 地区計画やウォーカブル推進税制等を活用した建物低層部のオープン化を進める。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

2 動的で発見のある回遊と滞留の空間＜街路／公開空地＞｜JR武蔵野線高架下

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間

沿道のお店と一体となった、寄り道したくなる横丁

現在のイメージ

実現に向けた方向性

- 沿道店舗との連携のもと、歩行者利便増進道路（ほこみち）の指定、時間帯での交通規制（歩行者天国）により、道路空間の利活用を進める。
- 景観デザイン（看板など）のルール作りを進める。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

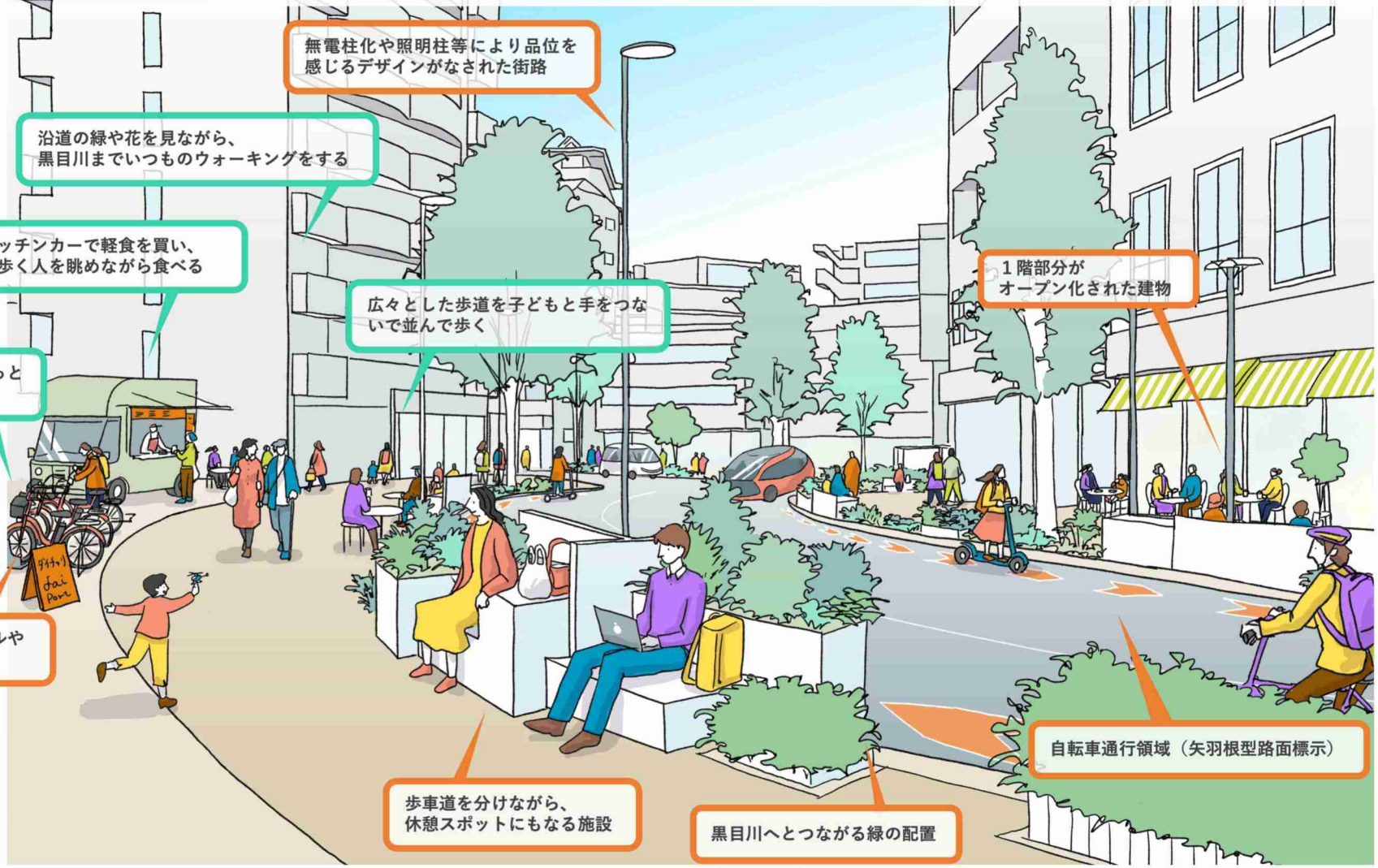
主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

3 人と車が安全に行き交う広々とした空間＜幹線道路＞｜市道2167号線

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間

人と車が安全にすみ分けされた、まちのメインストリート



現在のイメージ

実現に向けた方向性

- 歩行者利便増進道路（ほこみち）指定し、道路上でのファニチャー設置やテラス営業等道路空間の利活用を進めるほか、地区のシンボルとなる道として、無電柱化やファニチャーの設置等の道路空間の改修を進める。
- 地区計画やウォーカブル推進税制等を活用した建物低層部のオープン化を進める。
- 壁面後退で生まれたオープンスペースの活用を進める。
- 景観デザイン（看板など）のルール作りを進める。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

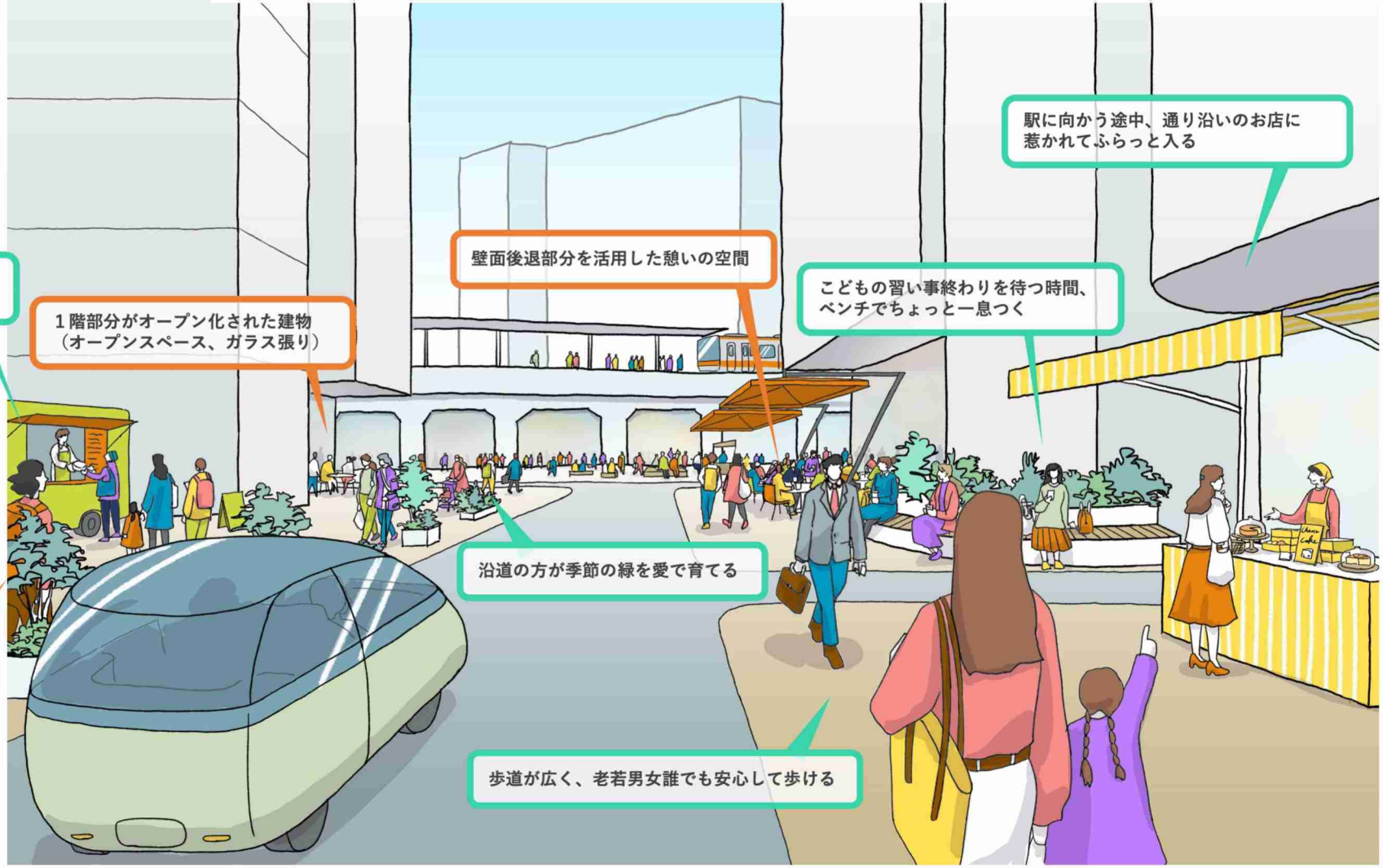
主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

4 人と車が安全に行き交う広々とした空間＜幹線道路＞｜市道2215号線

沿道のにぎわいがにじみだし、ふとした出会いがあるみち

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間



現在のイメージ

実現に向けた方向性

- ロータリーの広場化と合わせた道路空間の再配分による歩道拡幅を検討する。
- 地区計画やウォーカブル推進税制等を活用した建物低層部のオープン化を進める。
- 壁面後退で生まれたオープンスペースの活用を進める。
- 道路美化活動団体等、市民参画で緑を育てる取組を進める。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

5 囲われ感と開放感が共存し居心地良い空間＜公園や広場＞｜南割公園など

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間

多世代がつどう、まちなかのちいさなオアシス

現在のイメージ

実現に向けた方向性

- 公園内行為許可基準の緩和、禁止ルールの見直しにより、公園でできることを広げる。
- 公園サポーター制度の充実による、市民と一体となった公園の魅力向上を進める。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

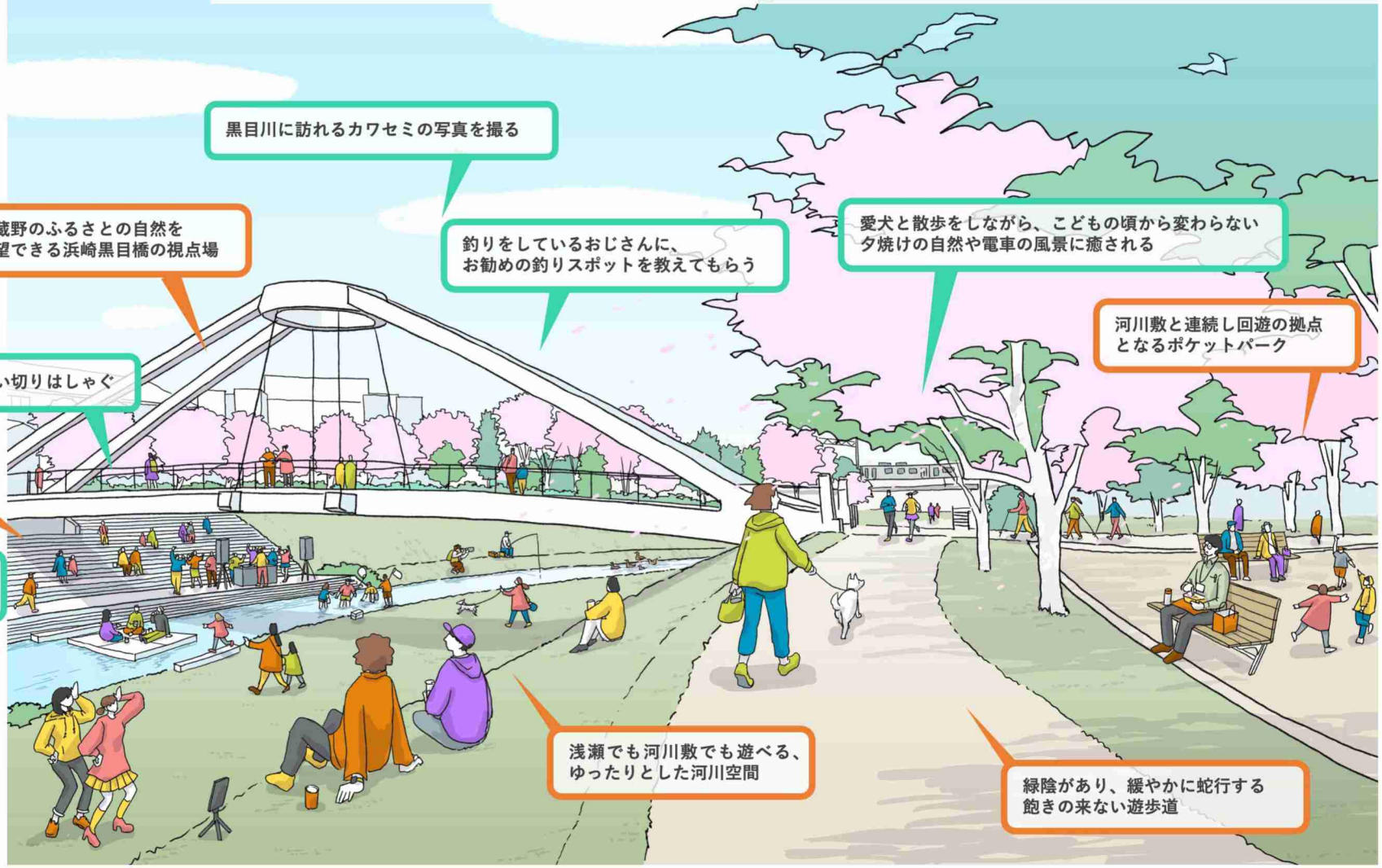
主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

6 自然に触れることができる空間＜河川や緑地＞ ｜浜崎黒目橋近く

豊かな自然と活動が交差する、ふるさとの風景

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間



現在のイメージ

実現に向けた方向性

- 黒目川の豊かな自然環境を守っていく。
- 河川空間のオープン化により、イベントの開催や川床の設置等河川空間の利活用を進める。
- グリーントレイルや浜黒ポケットパーク等、遊歩道の魅力の向上と、その発信を進める。
- 除草・清掃イベントの開催等、市民と一体となった河川空間の魅力向上を進める。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

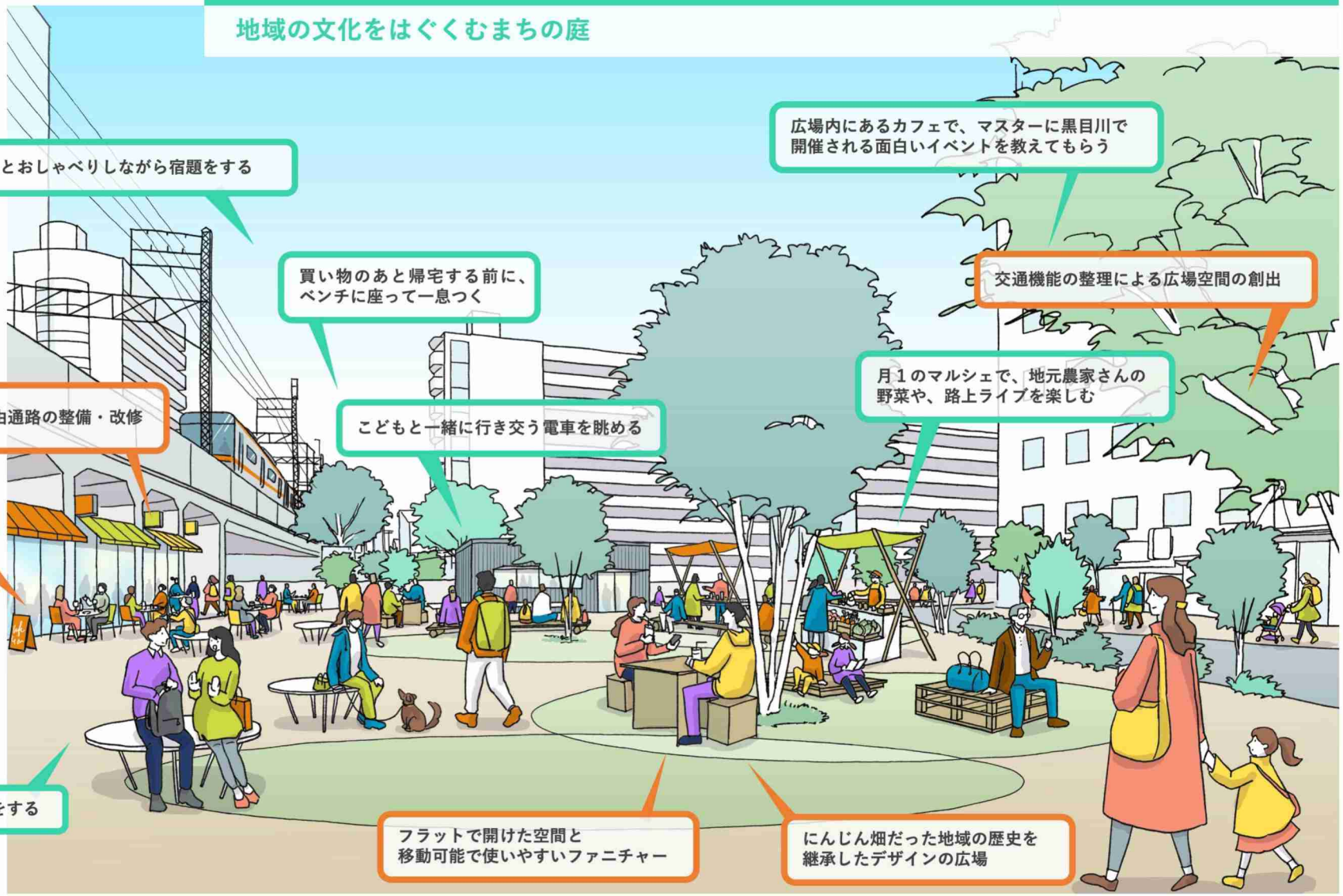
主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

7 ヒト・モノ・コトの交差する結節的空間＜駅前広場＞ ｜西口ロータリー

地域の文化をはぐくむまちの庭

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間



現在のイメージ

実現に向けた方向性

- 車中心のロータリーから人中心の広場へと改修を行う。その際、周辺エリアも含めた交通機能の検証、見通しや夜間の明るさの確保による防犯対策も検討する。
- 広場内での飲食店等収益施設の設置や、広場空間の利活用にかかる仕組みづくりを検討する。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

03 エリアの目指す将来像

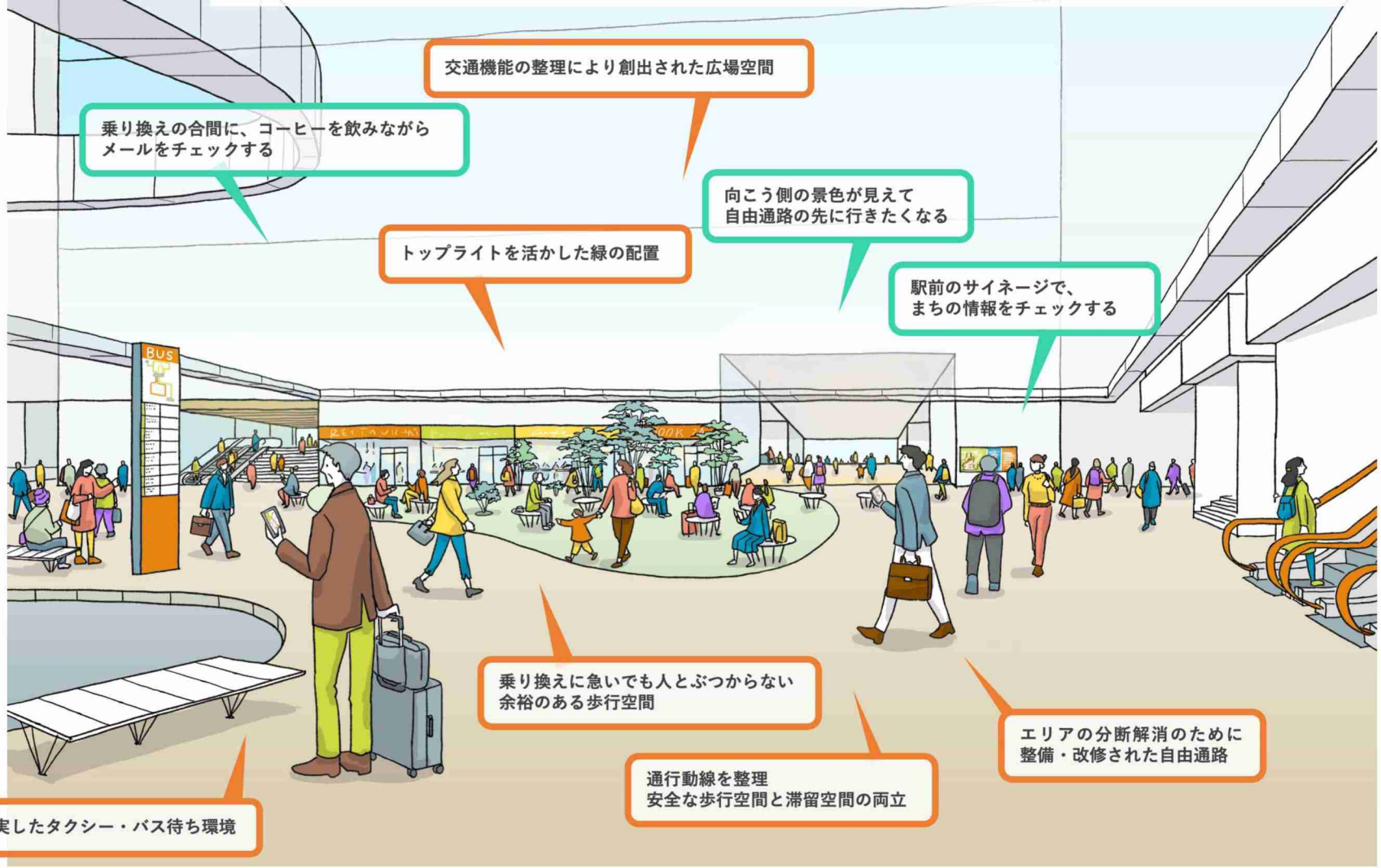
主要なウォーカブル空間と望ましいシーン

8 ヒト・モノ・コトの交差する結節的空間＜駅前広場＞ ｜東口ロータリー

望ましいシーンを支える要素

- 体験
- 空間

スムーズな移動と居心地の良い滞留が共存する、まちの玄関口



現在のイメージ

実現に向けた方向性

- 駅舎・自由通路の課題に対して、鉄道事業者・交通事業者と地元が一体となって駅前の交通結節点のあり方の検討を進める。
- 特に、バリアフリー化の推進や、自由通路の拡充・魅力向上によるエリアの分断解消を検討する。
- 広場空間の利活用にかかる仕組みづくりを検討する。

このパースはイメージであり、関係者の合意を得たものではありません

04 目指す将来像を実現させるための施策

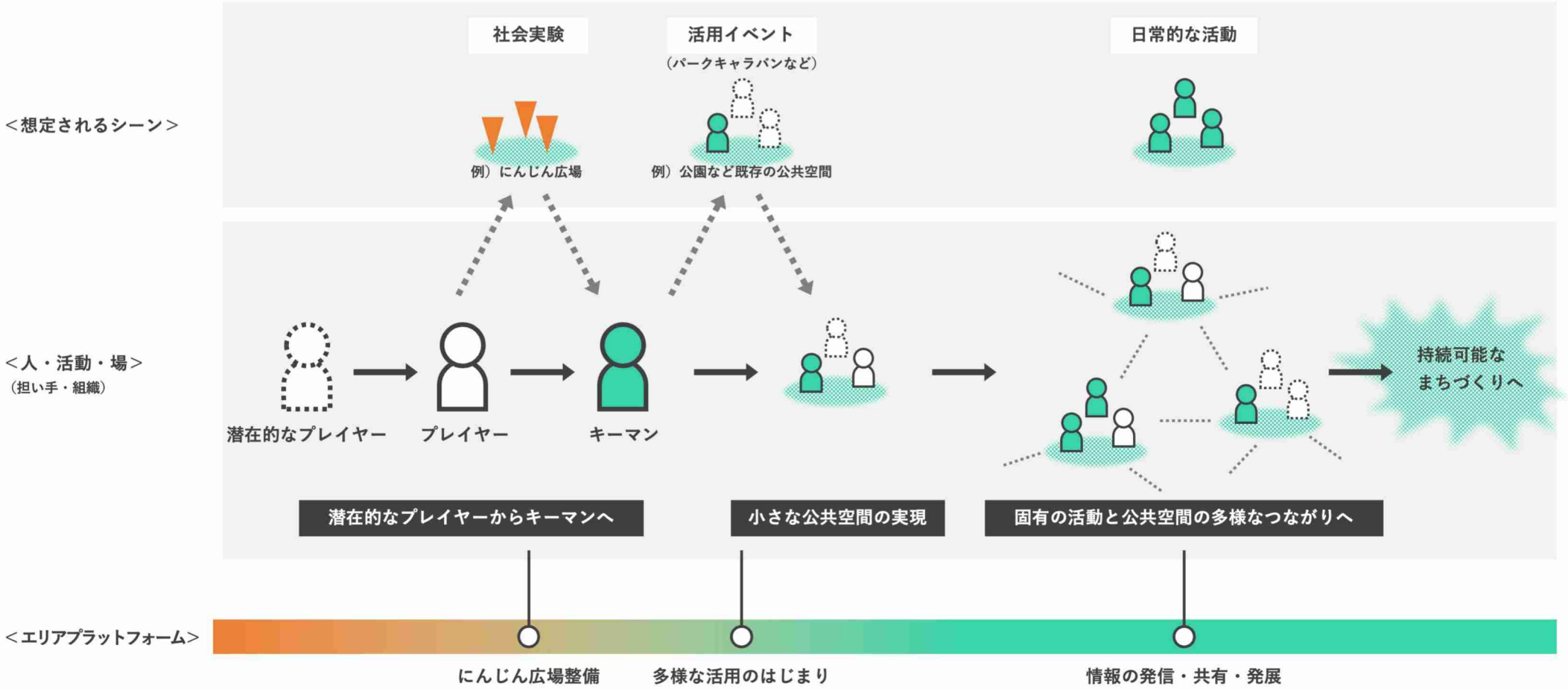
04 Strategy

04 目指す将来像を実現させるための施策

実現へのみちすじ

re crossingを実現する小さな公共空間を増やすシナリオ

エリアの将来像であるre crossingを実現するためには、人・活動・組織、そしてそれらを支える場＝小さな公共空間を育てていくことが重要です。そしてこの小さな公共空間は、行政が整備するものだけではなく、エリアプラットフォームやデザインラボの仕組みを通した活用などにより、既存の公園や道路、民地などでも実現ができるものであると考えます。



04 目指す将来像を実現させるための施策

実現に向けた取組み

取組みを支える3つの観点

将来像を実現させるための施策には、下図の通り3つの観点が重要です 。活動を通して人々が出会うこと、小さな公共空間が増えて拡がっていくこと、そして人々がつながり持続することです。
ここでは、それぞれの観点に紐付く施策を整理しました。

であい

まちで過ごす人の日常に、ささやかな発見のあるまち

まちなかに小さな公共空間を生み出し、
そこで様々な活動が行われることで、
まちを通過するだけの人々が
偶然性の出会いにより
互いに関わり合いを持つようになります。

ひろがり

まちなかに魅力があふれ、歩きたくなるまち

まちなかに生み出された小さな公共空間は、
互いにつながりを持ち、
そこでの活動はやがて
エリア全体に拡がっていきます。
人々は公共空間での日常を楽しみ、
まちに新たな魅力が生まれていきます。

つながり

まち・ひと・ことが互いに関わり合い、つながりのあるまち

公共空間を軸にしたまちづくりの取組は、
多様な人々が手を取り合い、
持続可能な仕組みづくりを
確立することによって支えられていきます。

**北朝霞・朝霞台駅周辺エリアでの
生活や経済活動が充実することで
豊かな出会いのあるまちへ。**

であい

空間を生み出す

- ●公共空間の整備
  北朝霞駅西口ロータリー、福祉等複合公共施設、公園、黒目川の整備
- ●空き店舗、空き家の活用（リノベーション）

空間に集めるふれあいを生む

- ●ファニチャーの設置
  まちなかベンチ
- ●イベントの実施
  既存イベントとのコラボ（花まつり、どんぶり王、彩夏祭等）
  既存団体との連携（プレーパークの会、商工会等）
  キッチンカー、ファーマーズマーケット、コンテナショップ

ひろがり

空間へのみち移動をととのえる

- ●交通安全対策の検討・導入
  ゾーン30プラス、交通結節点の在り方の検討
- ●快適な道路環境の整備
  歩道の整備、まちなかベンチ、無電柱化、沿道の連続性を演出する取組（フラッグ等）
- ●快適な道路環境に向けた制度の検討
  壁面後退、地区計画の見直し、シェアサイクル

空間と空間をつなぐ

- ●エリア内の店舗で共同企画の検討
  企画メニューの人気投票、裏メニューの考案
- ●デジタルツールと連携した取組の検討
  おさんぽアプリ、地域通貨
- ●多様な情報発信の検討
  SNS、コミュニティFM、地域情報誌

つながり

持続可能なまちづくり

- ●エリアプラットフォームの活動
- ●収入確保のための検討
  公共空間の占用料、出店料
- ●空き店舗、空き家等の活用（リノベーション）

多様な人材が連携できる仕組みづくり

- ●人的資源の発掘（デザインラボ）
- ●多様な連携による取組の検討
  大学との連携、小中学校の授業（シビックプライドの醸成）、店舗間の連携
- ●にんじん広場でのコンテナショップ

05 Roadman

05 将来像に向けた事業のロードマップ

エリアプラットフォームの紹介

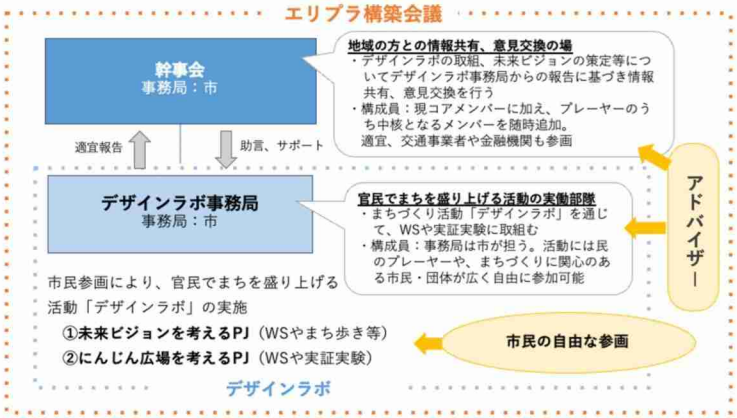
エリアプラットフォームとは

エリアプラットフォームとは、行政やエリアのまちづくりに興味がある団体・市民など、色々な人材が集まり、まちの将来像を考え、その実現に向けてそれぞれチャレンジしていく（緩やかにつながる）場のことです。
活動目標は、「北朝霞の公共空間を楽しく利活用できる仕組み・環境をつくることで、まちなかに持続的なにぎわいと居心地の良い空間を創っていくこと」（まちなかの公共空間を使いたい人が自由に使えるように）。　居心地の良い空間とは、今生活している人や将来暮らす人、駅を利用する人などすべての人にとって、「使いやすく」、「行きたくなる」、「立ち寄って滞在したくなる」、「刺激がある」、「時を忘れる」、「出会いがある」、「発見がある」ような空間のことです。（＝未来ビジョンを実現）

出典）国交省まちづくり推進課

エリアプラットフォーム構築会議

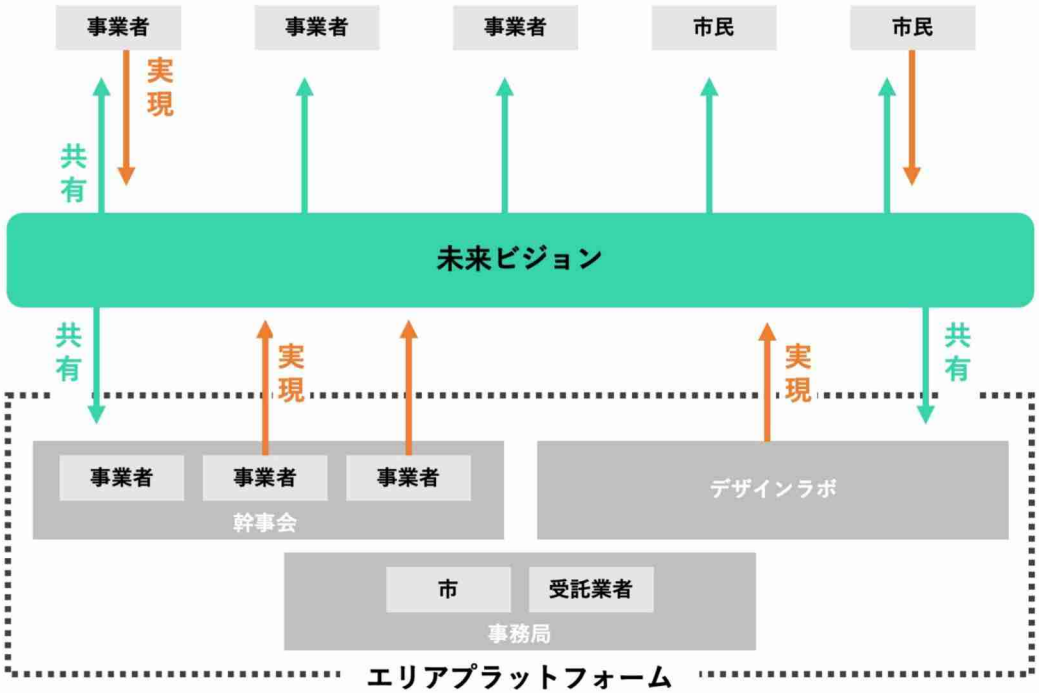
エリアプラットフォームの構築に向けて組成された任意組織。
情報共有と意見交換の場である幹事会と、官民でまちを盛り上げる活動の実働部隊であるデザインラボ事務局から構成されます。令和7年4月1日時点でエリアプラットフォームに移行しています。



推進体制

推進体制と未来ビジョンの位置付け

未来ビジョンはエリアの人々に、目指す方向性を示すこと、優先順位を共有することを目的とします。
エリアプラットフォームは、未来ビジョンの実現に向けて、幹事会で情報共有を行い、デザインラボが個々の取組をサポートします。



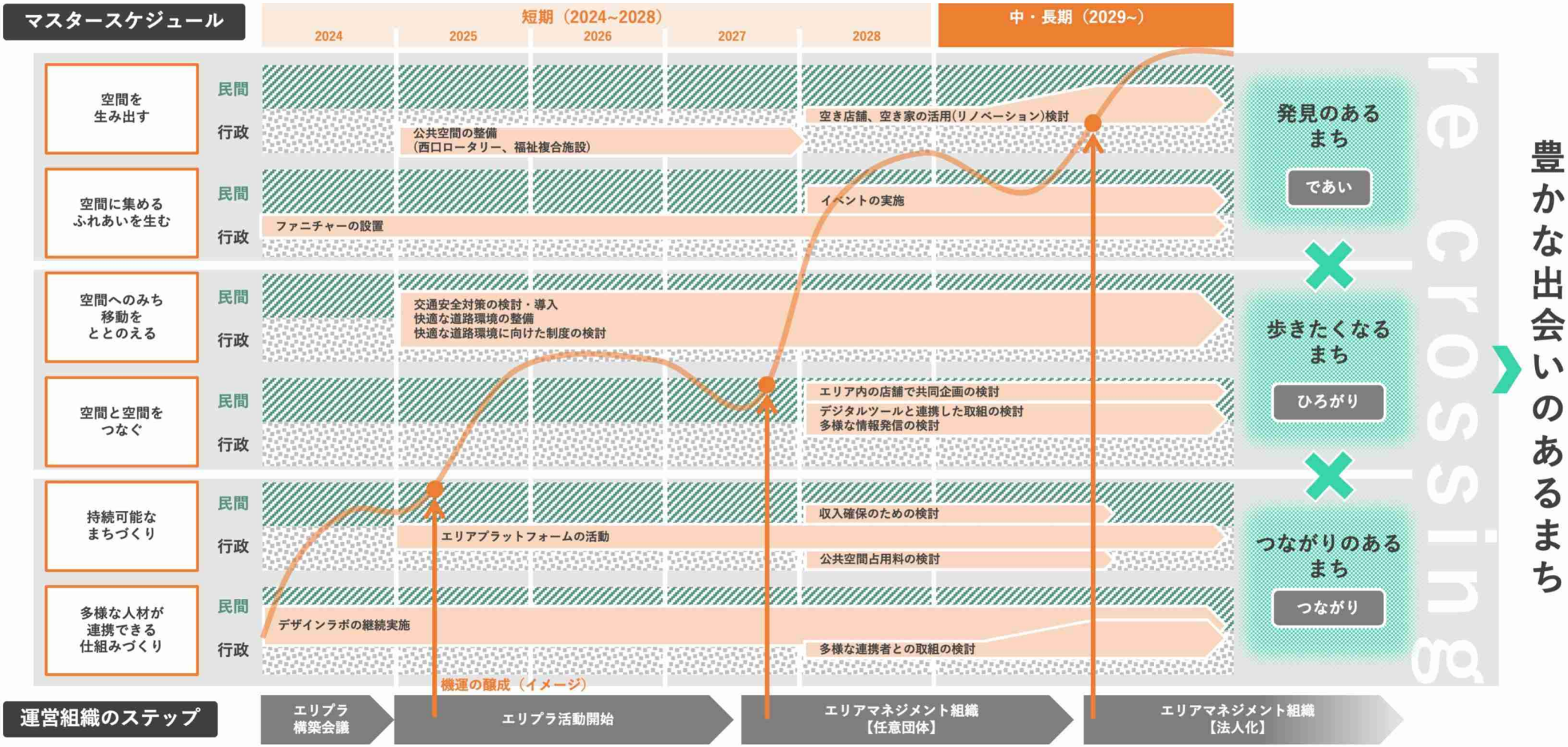
未来ビジョンは
市民や事業者の皆さんとともに
実現を目指すものです

05 将来像に向けた事業のロードマップ

スケジュール（マイルストーン）

2040年を見据えた段階的取組み

官民の連携による検討を経て、整備を行い、民間による運営の定常化を目指します。



民間の運営の定常化は、初期の行政(受託業者)の補助的な運営を経て、中間組織(利活用団体)による自立した運営を目指します。

05 将来像に向けた事業のロードマップ

エピローグ

2040年、北朝霞・朝霞台はどのようなまちになっているでしょうか？
禅問答に「隻手音声(せきしゅおんじょう)」と呼ばれる言葉があります。「両手を打ち合わせると音がするが、片手にはどんな音があるのか、それを報告しなさい」という問いで、明確な答えはありません。この問いには「音とはどのような過程で発生するのか」という科学的な意味と、「音とは何か」という哲学的な意味の両面が含まれています。
北朝霞・朝霞台での「音」とは、官と民の連携によりまちなかで生まれる様々な活動の音であり、一人（片手）では成し得ないことができた時に起きるハイタッチや喜びの声であってほしい。北朝霞・朝霞台エリアプラットフォームではそのように答えます。
まちで過ごす人々の交差（re crossing）が、次の15年の豊かさを育んでいく。そのような未来を思い描き、このビジョンがこの先のまちを作っていく多くの方々にとってのよりどころとなることを願っています。